

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

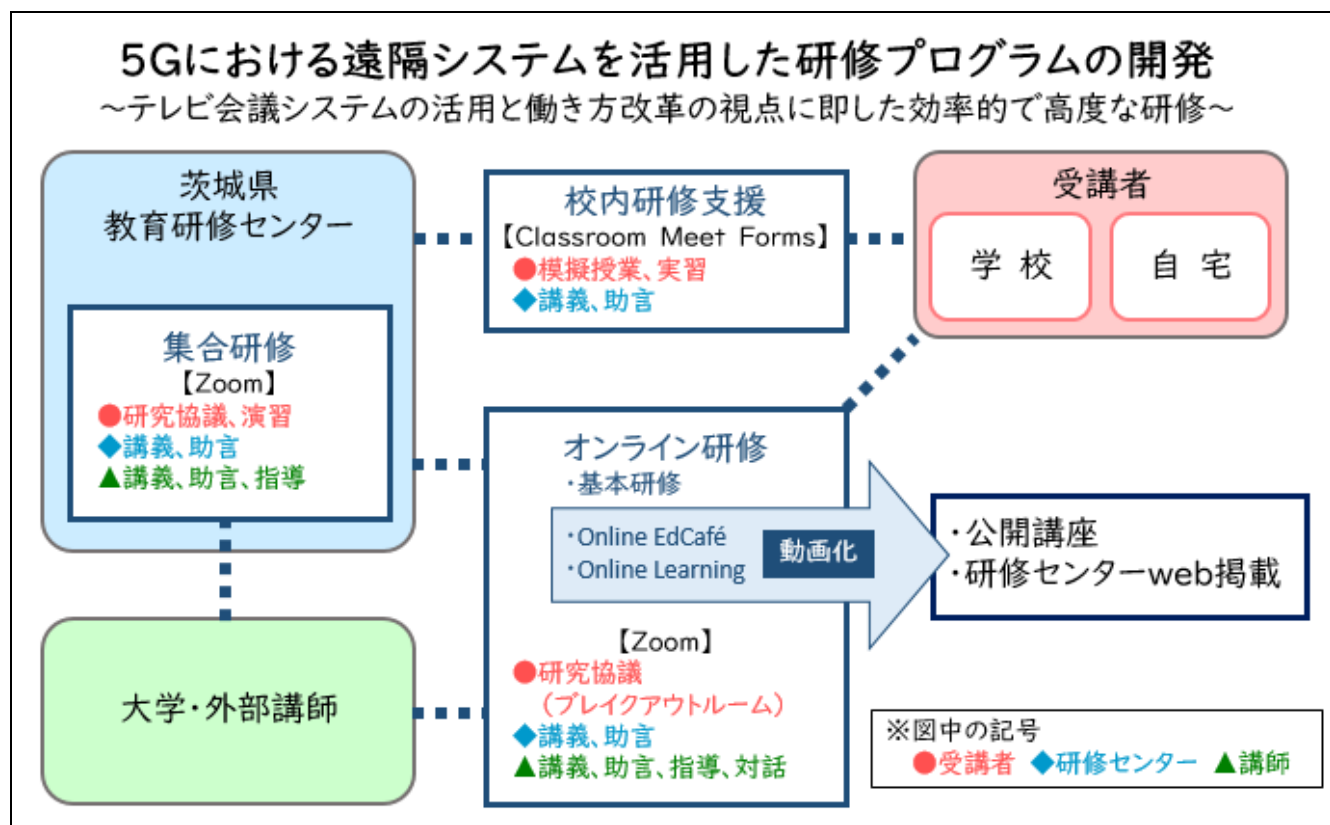
教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

プログラム名	5Gにおける遠隔システムを活用した研修プログラムの開発 ～テレビ会議システムの活用と働き方改革の視点に即した 効率的で高度な研修～
プログラム の特徴	対面研修と同様の効果が出るようなオンライン研修の在り方について、使いやすいテレビ会議システム、機器、研修の進め方などに関する実証研究を行う。その際、地元の三大学教員養成連携協議会（茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学）の協力の下、遠隔システムを活用した効率的で高度な研修を行い、プログラムの開発に資する。

令和3年3月

機関名 茨城県教育研修センター
連携先 三大学教員養成連携協議会
(茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学)

プログラムの全体概要



1 開発の目的・方法・組織

① 開発の目的

教職員研修の充実、教職員の多忙化の解消、限りある資源（時間や予算）の有効活用を考えた上で、効率的で高度な研修を行うことが求められている。また、5G、Society 5.0といわれるように、教育の情報化やオンラインでつなぐ環境は日進月歩に進化を遂げている。このような中、教員研修についても、従来の集合型研修にとどまらず、遠隔システムを活用した研修の開発は欠くことのできない課題である。

そこで、研修の内容・進め方によって、どのような遠隔の方法を取ると効率的で高度な研修を行うことができるか見極めることを通し、遠隔システムを活用した双方向性がある研修や授業のモデルを作成することが目的である。また、県内外の教育センターや学校に対して、当教育研修センターのホームページや研究紀要等を通じ、効率的で高度な遠隔システムを活用した研修や授業のモデルを提供する。さらに、令和3年度の全国教育研究所連盟研究協議会等で、今回のプログラム開発・実施事業の成果をまとめ、遠隔システムを活用した研修のモデル事例を紹介する。

② 開発の方法

プログラム開発のための具体的施策は、以下の通りである。

○実験期（4月～6月）

実証研修を行う前に、テレビ会議システム、機器、研修の進め方について、それぞれの特徴や使いやすさ等について調査・実験を行う。

- ・テレビ会議システム
Zoom、Meet

- ・研修講座の内容
研究協議、演習、鑑賞、観察・実験
- ・研修の進め方
研修プログラム設計、講師助言のタイミング等

○実施期（6月～1月）

プログラム開発は、以下の三つを柱として取り組む。

<テレビ会議システムを活用した校内研修支援>

教育研修センターの事業の一つである「校内研修支援事業」として実施した。通常ならば、現地に赴いて研修を行うが、コロナ禍におけるオンライン授業への対応が必要になった学校等の要望に合わせ、テレビ会議システムを活用したオンライン研修として実施する。

講義や動画視聴等の一方向での研修ではなく、受講者とのやり取りを含めた、双方向での研修を構築する。

<講師遠隔型のオンライン研修を取り入れた各種研修講座>

実験期の成果を生かし、講師遠隔型のオンライン研修として、大学教授等の講師が、集合研修の会場から離れた大学等から、研究協議や演習や実験にオンラインで参加し、グループ等の発表を聞いた後、指導助言や質疑応答を行う実証実験を行う。

実証実験は、以下の研修講座（予定）で実施する。

8月7日	これからの図画工作・美術科研修講座（Aコース） 講義・実技「表現と鑑賞を関連させた図画工作科授業づくり」
8月18日	これからの図画工作・美術科研修講座（Bコース） 講義・実技「表現と鑑賞を関連させた美術科授業づくり」
9月8日	若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、美術） 講義・演習「造形的な視点を豊かにするための図画工作・美術科の授業づくり」
9月8日	若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、数学） 講義・研究協議「数学科の授業づくり」
1月22日	新規採用養護教諭研修講座 研究協議「実践研究の発表」
1月27日	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（小学校、理科） 研究協議「課題研究の発表」
2月12日	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校、数学） 研究協議「課題研究の発表」
2月17日	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校、数学） 研究協議「課題研究の発表」

<外部講師と連携したオンライン研修の構築>

学校が抱える教育課題を把握し、専門的に研究を行っている外部講師と連携したオンライン研修を新規事業として構築する。

教育研修センターの公開講座として位置付け、受講者は所属校や自宅から参加できるように配慮する。また、オンライン研修の内容を動画化し、教育研修センターのWebページに掲載することで、研修成果の共有を図る。

○検証期（1月～2月）

行った研修（実証実験）についてのデータを整理し、検証結果をまとめる。2月中旬まで実施研修が残っているが並行して行う。

○普及期（3月～）

普及のための具体的な施策としては、以下の方法で行う。特に、全国の都道府県指定都市教育センターに対して、成果が共有できるようにする。

- ・当教育研修センターの Web ページに掲載する。（3月）
- ・当教育研修センターで作成している研究紀要に投稿する。（3月）
- ・全国教育研究所連盟、関東地区全国教育研究所連盟、都道府県指定都市教育センター所長協議会において、成果を発表する。（次年度）

③ 開発組織

研修企画担当者一覧

所 属・職 名	氏 名	担 当・役 割	備 考
教育研修センター所長	猪瀬 宝裕	全体総括	
次長	菅野 弘司	全体総括	
次長兼教職教育課長	田辺 光博	企画・運営総括	
企画管理課長	興野 典子	管理総括	
教科教育課長	櫻井 良種	企画・運営	
情報教育課長	渡邊 聡	技術担当総括	
教科教育課指導主事	坂本 要	本事業の担当、企画・運営	
同 指導主事	星野 優子	企画・運営	
情報教育課指導主事	小林 正士	技術担当	
企画管理課係長	中屋 ちなつ	管理担当	

2 開発の実際とその成果

①オンラインを活用した校内研修支援

○研修の背景やねらい

校内研修支援は、教育研修センターの事業の一つであり、「研修テーマ（例）」を参考に、市町村立学校、市町村教育委員会及び県立学校からの要請を受け、訪問を通して校内研修等を支援している。その成果を教育研修センターの講座や研究及び県の教育施策等に反映させ、本県教育の充実に資することがねらいである。

研究授業、研究協議、講義、演習、学習指導案検討等の要請があり、研修の日程は、1日・半日・2時間程度から各校が選択して設定している。

通常であれば、現地に赴いて研修支援を行っている。しかし、コロナ禍における現状に対応するため、児童生徒が自宅で学習できる環境を整えたい学校側の強い要望と、オンラインによる双方向型の研修方法を確立したい教育研修センター側の思いがあり実現することができた。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

会 場	県立日立第一高等学校 同 附属中学校	県立石岡第二高等学校
対 象	茨城県立学校に在籍する、校長、教頭、教諭等	
人 数	70 人	36 人
期 間	令和2年4月30日（木）	令和2年6月26日（金）
日 程	1時間程度	2時間程度
講 師	情報教育課 指導主事	情報教育課 指導主事

○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

研修項目を配置するに当たり、配慮した点は以下の通りである。

- ・コロナ禍における不要不急の外出の自粛に対応するため、教育研修センターと各学校をテレビ会議システム（Meet）で接続する。

- ※講師（情報教育課の指導主事）は、教育研修センターの研修室から参加
- ※各学校の教職員は、所属校及び自宅等（在宅勤務の場合）から参加
- ・児童生徒が、自宅で学習できる環境を整えたいという学校側の要望を受け、具体的な操作の手順や実際の授業を想定した研修を行う。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
県立日立第一高等学校、同附属中学校（4/30）	1時間程度	コロナ禍におけるオンラインを活用した双方向型の研修方法の開発	<p>○実施形態 教育研修センターと学校をテレビ会議システムで接続（在宅勤務の教職員は自宅から）</p> <p>○使用教材（アプリ） G Suite for Education（Classroom、Meet、Forms）</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Classroomを使用した出欠確認 ・チャット機能を使用した健康状態の把握 ・動画投稿サイト（YouTube）の動画視聴の手順（教育研修センター指導主事作成） ・Formsを使用した小テストの作成 ・Formsを使用した添削の手順 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は、教育研修センターと県立日立第一高等学校を2回線のMeetで結ぶ。 ・それぞれの回線に、教師用と生徒用の画面を投影し、模擬授業を実施する。 ・在宅勤務の教職員は、教師用画面を視聴することで、模擬授業に参加できるように配慮する。 <p>○その他 1時間程度の研修中での回線トラブルはなく、質疑応答等も含めて実施することができた。</p>
県立石岡第二高等学校（6/26）	2時間程度	コロナ禍におけるオンラインを活用した双方向型の研修方法の開発	<p>○実施形態 教育研修センターと学校をテレビ会議システムで接続（在宅勤務の教職員は自宅から）</p> <p>○使用教材（アプリ） G Suite for Education（Meet）</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画作成に関する講義 ・パワーポイントを使用した動画づくり <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は、教育研修センターと県立石岡第二高等学校をMeetで結ぶ。 ・在宅勤務の教職員も、自宅から研修に参加できるように配慮する。 ・学校からの要望である、分かりやすい動画作成のためスキル習得を目指す。

			<ul style="list-style-type: none"> ・講義「魅力ある動画づくりを目指して」では、チャット機能を使用して受講者間での意見交換を取り入れる。 ・受講者からの意見をもとに、文章構成、ナレーション、レイアウト、ビジュアル化等の要素から動画作成のポイントを確認する。 ・実習「パワーポイントを使用した動画づくり」では、事前に作成したスライドにナレーションを入れ、動画作成を行う。 ・ナレーションを入れる際の手順や注意点について確認しながら、受講者一人一人が動画作成に取り組めるようにする。 ・受講者からの疑問は、チャット機能を使用して入力し、教育研修センターのチャット担当が確認、対応することで、実習がスムーズに進むように配慮する。 <p>○その他</p> <p>約2時間の研修中、一度だけ回線が途切れるトラブルがあったが、予定通りに研修を行うことができた。</p>
--	--	--	--

<教育研修センター情報教育課が作成した動画資料>

- ・教材動画の作成とアップロード方法①（簡単な授業動画の撮影方法）
<https://youtu.be/9Q2koF4BftI>
- ・教材動画の作成とアップロード方法②（パワーポイントを動画にする）
<https://youtu.be/aDfdz2fCwck>
- ・教材動画の作成とアップロード方法③（YouTube 動画のアップロード方法）
<https://youtu.be/8BkZMA4f0r8>
- ・Google Forms を利用したアンケート・小テストづくり
<https://youtu.be/LxEAucJdQoM>
- ・Google Classroom を利用したオンライン授業づくり
<https://youtu.be/qoC-TPpRHc4>

○実施上の留意事項

- ・コロナ禍における対応を考慮し、教育研修センターと各学校をテレビ会議システム（Meet）で接続した。
- ・在宅勤務の教職員も、自宅等から研修に参加できるようにした。
- ・オンラインを活用した、双方向型の研修の確立を目指す。

○研修の評価方法、評価結果

県立日立第一高等学校及び同附属中学校での校内研修支援

<アンケート調査の回答より> 成果 課題

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 画面を通して、講師と一緒に操作の手順等について確認できて良かった。
<input type="checkbox"/> 模擬授業を想定し、教師側を実際に体験できたことで、具体的な授業をイメージできた。
<input type="checkbox"/> 分からないことについて、その場で講師に質問することができた。 |
|--|

- Forms を活用した小テストについて、もう少し詳しく知りたい。
- 印刷物で資料を配付した方が、スムーズに参加できた。

事後に行ったアンケート調査では、90%以上の受講者が「分かりやすい」と回答している。とくに、生物の授業を想定した模擬授業では、一つ一つ丁寧に操作の手順について確認できたことや受講者が模擬授業を通して、授業の流れを具体的にイメージできたことなど、場面設定を工夫したことがアンケートの高評価につながった。

Forms を使用した小テストの作成と添削指導については、「十分な時間がなく、添削指導を行うことができなかった。」、「これまでよりも作業が複雑に感じた。」等の回答が見られた。今回の研修では、研修時間や研修内容の制約のため、Forms については、簡単な操作手順等の紹介を想定していたが、受講者側のニーズの高さを確認することができた。そのため、「Google Forms を利用したアンケート・小テストづくり」という動画を作成し、教育研修センターの Web ページで公開した。オンラインでの授業づくりに伴い、どのようなことが学校で必要になるのかについて把握し、対応できたことは、教育研修センター側にとっての成果だと考えられる。

また、受講者からは、以下のような内容について、研修を受けたいとの回答があり、次年度以降の研修講座の構築に向けて、学校のニーズを把握することができた。

- ・映像によるライブ授業を実施する方法
- ・スプレッドシートやスライド、Meet 等の使い方
- ・オンライン授業における双方向でのやり取りの方法

県立石岡第二高等学校での校内研修支援

<アンケート調査の回答より> 成果 課題

- 講義を通して、「魅力ある動画」についてイメージを共有することができた。
- チャット機能を使用して、随時質問できたので、疑問点が解消された。
- 受講者が入力したチャットの内容を共有することで、意見交換をすることができた。
- 動画づくりを実際に体験したことで、動画作成に必要なスキルが身に付いた。
- オンライン研修を体験し、相手に伝わる話し方について気がついた。
- 学校側のオンライン研修担当者の負担が大きい。

講義「魅力ある動画づくりを目指して」では、冒頭に、チャット機能を使って「魅力ある動画」について意見交換を行った。受講者側からは、「生徒の関心、意欲を高める動画」、「教師の説明が簡潔で分かりやすい動画」等の意見が寄せられた。その意見をもとに、講義内容を構成したことで、受講者とイメージを共有し、動画作成に必要なスキル習得に向けて寄与することができたと考えられる。

また、講義の中では、動画視聴を授業に取り入れるメリットについても、チャット機能を使用して意見交換を行った。「理解するまで繰り返し見ることができる。」、「動画を途中で止めて確認することができる。」等の意見が寄せられた。意見交換を通して、動画視聴により得た知識を、生徒が学校で他者と関わり合いながら深い学びへとつなげていくこと、そのための授業改善を行うことが必要であることを確認することができた。

実習「パワーポイントを利用した動画づくり」では、アンケートの回答にもあるように、スライド資料にナレーションを入れる際の手順について、質問を随時チャット機能で入力していただいた。教育研修センター側のチャット担当が確認、対応し、スムーズに実習を行うことができた。オンライン研修を行う側が、適切に役割分担をすることで、対面での研修以上に、受講者との関わりを大切にしたい研修を行うことができた。

○研修実施上の課題

今回の研修の課題としては、実習の場面で、受講者側の進捗状況を確認することが難しかったこと、学校側のオンライン研修担当の負担が大きかったことが考えられる。講義を聞く、動画を視聴する等のオンライン研修ではなく、実習を伴った双方向型のオンライン研修については、今回の反省を生かし、円滑な研修の運営について、引き続き検討する必要がある。

② オンライン（講師遠隔型）を活用した研修講座

○研修の背景やねらい

基本研修や希望研修の研究協議や演習において、大学教授等から専門的な助言指導を受けることで研修を深めることができる。これまでは講師がセンターへ来所しての助言指導が多かったが、オンラインの特性を生かした双方向型の研修により同様の内容が可能となる。また、講師が来所する際の負担軽減や旅費の削減にもつながり、研修のねらいに合わせて依頼できる講師が多様となる。オンラインの活用により、受講者も多様な講師とつながり、専門性を高めることができる。

○期日、研修名、対象、人数、講師

期日	研修名	受講人数	講師
令和2年 8月7日（金）	これからの図画工作・美術科研修講座（Aコース） 講義・実技「表現と鑑賞を関連させた図画工作科の授業づくり」	小特教諭 18人	茨城大学 助教 小口 あや
令和2年 8月18日（火）	これからの図画工作・美術科研修講座（Bコース） 講義・実技「表現と鑑賞を関連させた美術科の授業づくり」	中高教諭 18人	茨城大学 助教 小口 あや
令和2年 9月8日（火）	若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、美術） 講義・演習「造形的な視点を豊かにするための授業づくり」	7人	茨城大学 助教 小口 あや
令和2年 9月8日（火）	若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、数学） 講義・研究協議「数学科の授業づくり」	36人	茨城大学 教授 小口 祐一
令和3年 1月22日（金）	新規採用養護教諭研修講座 研究協議「実践研究の発表」	32人	茨城キリスト 教大学 教授 松永 恵
令和3年 1月27日（水）	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（小学校、理科） 研究協議「課題研究の発表」	24人	茨城キリスト 教大学 講師 穂積 訓 常磐大学 准教授 石崎 友規
令和3年 2月12日（金）	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校、数学） 研究協議「課題研究の発表」	31人	茨城大学 教授 小口 祐一
令和3年 2月17日（水）	中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校、数学） 研究協議「課題研究の発表」	17人	茨城大学 教授 小口 祐一

○各研修での配慮事項

- ・来所による集合研修では、教育研修センターと講師をテレビ会議システム（Zoom）で接続し双方向型の研修とする。
 ※講師は、大学の研究室等から参加
 ※受講者は教育研修センターに来所し、研修室から参加
 ※受講者は、研修室のスクリーンやモニターで視聴する。必要に応じてタブレット型PC等を利用して講師とやりとりをする。
- ・オンライン研修では、教育研修センターと受講者、講師をテレビ会議システム（Zoom）で接続し、双方向型の研修とする。
 ※講師は、大学の研修室等から参加
 ※受講者は、所属校または自宅から参加

○各研修の目的、実施形態、内容、進め方の留意事項等

研修名、期日、人数、講師	目的、実施形態、進め方の留意事項等
<p>これからの図画工作・美術科 研修講座（Aコース）</p> <p>○講義・実技 「表現と鑑賞を関連させた 図画工作科の授業づくり」</p> <p>・令和2年8月7日（金） ・18人 （小学校、特別支援学校教諭） ・講師 茨城大学助教 小口 あや</p>	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した図画工作科の授業づくりの提案 <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者用iPadをテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による鑑賞法についての講義 ・受講者は、カプセルトイの中身を粘土で制作 ・受講者は相互鑑賞の際、iPadで作品をスクリーンに拡大投影しながら制作意図を紹介し全体共有 ・講師も相互鑑賞を視聴し、作品と意図を共有 ・講師による助言指導 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物ではなくiPadで撮影しながら鑑賞することの利点を活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を拡大して見ることができる。 ・意図に応じた構図や角度で作品を示すことができる。 ・画面に不必要な情報が入らないため、作品の技能よりも発想やアイデアに着目して鑑賞できる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・画面に講師の顔を映し出し、講師には受講者の様子を配信することで、互いの反応を感じながら研修を行う。 <p>○その他 1時間半程度の研修での回線トラブルはなく実施することができた。</p>
<p>これからの図画工作・美術科 研修講座（Bコース）</p> <p>○講義・実技 「表現と鑑賞を関連させた</p>	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した美術科の授業づくりの提案 <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者用</p>

<p>美術科の授業づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年9月8日（火） ・18人 （中学校、高等学校、特別支援学校教諭） ・講師 茨城大学助教 小口 あや 	<p>iPad をテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による鑑賞法についての講義 ・受講者は、カプセルトイの中身を粘土で制作 ・受講者は相互鑑賞の際、iPad で作品をスクリーンに拡大投影しながら制作意図を紹介し全体共有 ・講師も相互鑑賞を視聴し、作品と意図を共有 ・講師による助言指導 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物ではなく iPad で撮影しながら鑑賞することの利点を活用する。 <div data-bbox="651 622 1449 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を拡大して見ることができる。 ・意図に応じた構図や角度で作品を示すことができる。 ・画面に不必要な情報が入らないため、作品の技能よりも発想やアイデアに着目して鑑賞できる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・画面に講師の顔を映し出し、講師には受講者の様子を配信することで、互いの反応を感じながら研修を行う。 <p>○その他</p> <p>1 時間半程度の研修での回線トラブルはなく実施することができた。</p>
<p>若手教員〔初任者〕研修講座 （中学校、美術）</p> <p>○講義・演習 「造形的な視点を豊かにするための授業づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年9月8日（火） ・7人 ・講師 茨城大学助教 小口 あや 	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した美術科の授業づくりの提案 <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者用iPad をテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による鑑賞法についての講義 ・受講者はA評価とB評価の参考作品（絵画）を制作し、評価規準と制作意図について協議 ・受講者の相互鑑賞の際、iPad で作品をスクリーンに拡大投影しながら制作意図を紹介し全体共有 ・講師も相互鑑賞を視聴し、作品と意図を共有 ・講師による助言指導 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物ではなく iPad で撮影しながら鑑賞することの利点を活用する。 <div data-bbox="651 1778 1449 1964" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を拡大して見ることができる。 ・オンラインでは細かな色合いや質感等は分かりにくいですが、限られた画面により余計な情報が入らない。その分、技法よりもアイデアや発想に着目して鑑賞できる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・画面に講師の顔を映し出し、講師には受講者の様子を配信することで、互いの反応を感じながら研修を行う。

	<p>○その他 1時間半程度の研修での回線トラブルはなく実施することができた。</p>
<p>若手教員〔初任者〕研修講座 (中学校、数学)</p> <p>○講義・研究協議 「数学科の授業づくり」</p> <p>・令和2年9月8日(火) ・36人</p> <p>・講師 茨城大学教授 小口 祐一</p>	<p>○目的 ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した数学科の授業づくりの提案</p> <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、各分散会ごとのPCをテレビ会議システム (Zoom) で結ぶ。</p> <p>○内容 ・学習展開案について協議 ・4分散会に分かれて実施。講師は各分散会に順に参加し、それぞれの分散会で1名の受講者の協議に参加する。 ・学習展開案を画面共有しながら、協議を行う。 ・講師による助言指導</p> <p>○進め方の留意事項 ・できるだけ双方向になるように、チャットを活用する。</p> <p>○その他 ・映像は問題なく映ったが、音声トラブルがあった。1室で複数台のPCを使用する際には、注意が必要である。</p>
<p>新規採用養護教諭研修講座</p> <p>○研究協議 「実践研究の発表」</p> <p>・令和3年1月22日(金) ・32人 ・講師 茨城キリスト教大学教授 松永 恵</p>	<p>研究協議 「課題研究の発表」</p> <p>・令和3年1月22日(金) ・32人 ・講師 茨城キリスト教大学教授 松永 恵</p> <p>○目的 ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発</p> <p>○実施形態 ・教育研修センター指導主事用PC、外部協力者PC、講師PC、受講者用PC及びタブレット型PCをテレビ会議システム (Zoom) で結ぶ。</p> <p>○内容 ・分散会 (テレビ会議システム (Zoom) のブレイクアートルーム機能) で受講者の課題研究への指導助言 ・分散会での発表・研究協議の後、テレビ会議システム (Zoom) のブレイクアートルーム機能を解除し、メインルームで全員に対し全体講評</p> <p>○進め方の留意事項 ・講師を共同ホストにすることで、どの分散会にも参加することができるが、他の分散会の協議の流れを把握しきれないため、複数の分散会で助言をする際は計画的に行う必要がある。今回は一つの分散会に固定することで、指導助言を受けて協議の内容に深まりが出るようにし</p>

	<p>た。概ね目的を果たした。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師が入った分散会は5時間の接続で大きなトラブルはなかったが、他の分散会では受講者側の接続環境の問題で途切れることがあった。受講者側の回線が細い場合は一次的にカメラをOFFにしてもらうことが有効であった。 ・また、ブレイクアウトルームへの移動は一次的にカメラをOFFにしてもらうと移動が早い。 ・トラブルに対する代替案は、常に用意することが必要である。
<p>中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（小学校、理科）</p> <p>○研究協議 「課題研究の発表」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年1月27日（水） ・24人 ・講師 茨城キリスト教大学講師 穂積 訓 常磐大学准教授 石崎 友規 	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した理科の授業づくりの提案 <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者1人1台のPCをテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分散会に分かれて実施。講師は各分散会に順に参加し、それぞれの分散会において、各人からの質問への回答を中心に、助言を行う。 ・学習展開案やプレゼンを画面共有し、協議を行う。 ・講師によるまとめの助言指導 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員に公平な助言ができるよう、受講者には事前に講師への質問を考えておくよう連絡する。 ・チャット機能を利用し、受講者の意見を集約するなど、研修の双方向化に向けて工夫する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台で利用することで、講師が一人一人に助言指導を行っている感覚が増し、協議や講師への質問などが活発になった。
<p>中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校、数学）</p> <p>○研究協議 「課題研究の発表」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年2月12日（金） ・31人 ・講師 茨城大学教授 小口 祐一 	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した数学科の授業づくりの提案 <p>○実施形態 教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者1人1台のPCをテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4分散会に分かれて実施。講師は各分散会に順に参加し、それぞれの分散会において、各人からの質問への回答を中心に、助言を行う。 ・学習展開案やプレゼンを画面共有し、協議を行う。 ・講師による助言指導 ・講師によるまとめの助言指導

	<p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員に公平な助言ができるよう、受講者には事前に講師への質問を考えておくよう連絡する。 ・できるだけ双方向になるよう、チャットを活用する。 ・ファイル共有機能を利用し、データの共有を図る。 ・チャット機能を利用し、受講者の意見を集約する。 ・講師がメインルームに待機し、受講者が自由に質問できる時間を設定することで、主体的な活動を促す。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名で1台のPCを利用するよりも、1人1台で利用することで講師が一人一人に助言指導を行っている感覚が増し、協議や講師への質問などが活発になった。
<p>中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校、数学）</p> <p>○研究協議 「課題研究の発表」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年2月17日（水） ・17人 ・講師 茨城大学教授 小口 祐一 	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した双方向型の研修方法の開発 ・オンラインを活用した数学科の授業づくりの提案 <p>○実施形態</p> <p>教育研修センター指導主事用PC、講師PC、受講者1人1台のPCをテレビ会議システム（Zoom）で結ぶ。</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3分散会に分かれて実施。講師は各分散会に順に参加し、それぞれの分散会において、各人からの質問への回答を中心に、助言を行う。 ・学習展開案やプレゼンを画面共有し、協議を行う。 ・講師による助言指導 ・講師によるまとめの助言指導 <p>○進め方の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員に公平な助言ができるよう、受講者には事前に講師への質問を考えておくよう連絡する。 ・できるだけ双方向になるよう、チャットを活用する。 ・ファイル共有機能を利用し、データの共有を図る。 ・チャット機能を利用し、受講者の意見を集約する。 ・講師がメインルームに待機し、受講者が自由に質問できる時間を設定することで、主体的な活動を促す。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名で1台のPCを利用するよりも、1人1台で利用することで講師が一人一人に助言指導を行っている感覚が増し、協議や講師への質問などが活発になった。

○研修の評価方法、評価結果

これからの図画工作・美術科研修講座（Aコース）

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

- | |
|--|
| <p><input type="checkbox"/> つくった作品を講師に見ていただき、すぐに助言をいただけたので勉強になった。</p> <p><input type="checkbox"/> 専門的な立場からのアドバイスをいただけてよかった。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 個人的に質問ができるので、講師にはオンラインよりも来所してほしい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 講師が来所し、直接講義を聞いた方が分かりやすい。</p> |
|--|

事後に行ったアンケート調査では、「講師がいない状況の協議に比べて、オンラインで講師が参加することで学びが深まった。」に対して 100%、「講師が来所した場合に比べても、オンラインで講師が参加すれば同様に学びが深まると思う。」に対して 80%の受講者が肯定的に回答している。プレゼンテーションを画面共有しながら鑑賞法の講義を行ったことで、講義内容が理解しやすく来所しての講義と同様の内容ができたからだと考える。また、講師の画像をスクリーン右上に映して顔を見ながら視聴したことにより、表情や雰囲気から人と人とのつながりを感じながら双方向性のある研修を実施することができた。

「オンラインを用いた研修に参加することで、学校での活用の可能性を感じることはできたか。」のアンケートに対して、「ゲストティーチャーとしての講師参加」、「学校と家庭とのオンライン授業」、「他校との交流」が挙げられ、今後の1人1台端末の活用に向けて図画工作科の授業づくりの提案ができたと考えられる。

一方で「個人的な質問ができるので、オンラインよりも来所してほしい。」という回答も見られた。今後は、講師との質疑応答の時間を設定したりチャットを活用したりするなど、運営の工夫改善を図る。

これからの図画工作・美術科研修講座（Bコース）

＜アンケート調査の回答より＞ 成果 課題

- なかなか講師の講義が聞けない状況でも、オンラインであれば可能なので便利。
- 鑑賞とタブレット型PCの活用で学びが深まった。
- 美術では、やはり直接作品を見たり技法を教えていただいたりしたい。
- 画質やカメラワークに慣れないといけない。

事後に行ったアンケート調査では、「講師がいない状況の協議に比べて、オンラインで講師が参加することで学びが深まった。」に対して 95%、「講師が来所した場合に比べても、オンラインで講師が参加すれば同様に学びが深まると思う。」に対して 74%の受講者が肯定的に回答している。講義で鑑賞のポイントを理解してからタブレット型PCを使った相互鑑賞を行ったことで、鑑賞者の視点を意識して作品を投影し、技法よりも発想やアイデアに着目して鑑賞することができた。オンラインを活用すれば様々な講師の講義を聞くことができ、専門性を高められると感じた受講生も多い。

「オンラインを用いた研修に参加することで、学校での活用の可能性を感じることはできたか。」のアンケートに対して、「美術館とつないでオンラインでの鑑賞」、「生徒の作品発表」、「休校中でも制作した作品を発表できる場となる」などが挙げられ、今後の1人1台端末の活用に向けて美術科の授業づくりの提案ができたと考えられる。

一方で「美術では直接作品を見たい」という回答も見られた。図工・美術では、ICTを活用する学習活動と、実物を見たり実際に対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取る活動とを組み合わせることが重要である。それぞれのよさを生かした題材を開発し、今後の研修でも提案していきたい。

若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、美術）

＜アンケート調査の回答より＞ 成果 課題

- より専門的な視点から助言指導を受けることができた。
- 講義形式ではなく、相互にコミュニケーションがとれる形の研修だったので、より自分事として研修を受けることができた。
- 作品の細部や質感などは画像からでは読み取りにくい場合もあり、直接講義を受けたいと感じた。
- 個別に質問することが難しい。

事後に行ったアンケート調査では、「講師がいない状況の協議に比べて、オンラインで講師が参加することで学びが深まった。」に対して 100%、「講師が来所した場合に比べても、オンラインで講師が参加すれば同様に学びが深まると思う。」に対して 71%の受講者が肯定的に回答している。「オンラインを使ったコミュニケーションの経験ができた。」「大学講師の存在により、大学のゼミのような雰囲気の中で学ぶことができ楽しく研修を受けることができた。」等の回答が見られ、特に初任者にとっては安心して研修できる雰囲気づくりが大切であると感じられる。互いの表情を見ながら講義を受けられるようカメラを設置したことで、人と人とのつながりを意識した研修の雰囲気をつくることができた。

「オンラインを用いた研修に参加することで、学校での活用の可能性を感じることはできたか。」のアンケートに対して、「登校できない生徒との授業」、「他校との意見交換や相互鑑賞」、「芸術家や美術館をオンラインでつないだ授業」などの回答が見られた。年度当初の休校により、家庭でどのように美術の学習を進めるか試行錯誤したこともあり、オンラインを用いた家庭学習や反転学習への応用が期待される。

一方で「作品の細部や質感をオンラインの画像では読み取りにくい。」等の回答も見られた。細やかな色遣いや質感、迫力などはオンラインで感じ取るとは難しいため、オンラインで多様な作品に出会った経験が、本物の美術作品や自然などに触れるきっかけとなるような題材を研究したい。

若手教員〔初任者〕研修講座（中学校、数学）

＜アンケート調査の回答より＞ □成果 ■課題

- | |
|---|
| <p><input type="checkbox"/>より専門的な話を聴くことができるのがよい。</p> <p><input type="checkbox"/>研修のための移動時間の無駄がない。</p> <p><input type="checkbox"/>質問がしやすい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>回線状況の問題で、タイムラグがあったり、音が途切れたりする。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>講師の先生の表情が分かりにくい。</p> |
|---|

事後に行ったアンケート調査では、「講師がいない状況の協議に比べて、オンラインで講師が参加することで学びが深まった。」に対して 89%、「講師が来所した場合に比べても、オンラインで講師が参加すれば同様に学びが深まると思う。」に対して81%の受講者が肯定的に回答している。

「より専門的な話を聴くことができる。」という回答もあり、来所を依頼することが難しい講師でもオンラインならば参加していただくことも可能な場合もあることから、積極的に活用することで研修の質を上げることができると思う。研修の内容については、「質問がしやすい」、「表情が分かりにくい」など賛否両論あったが、研修方法を工夫することでデメリットを減らし、メリットを増やすことができると思う。

「オンラインを用いた研修に参加することで、学校での活用の可能性を感じることはできたか。」のアンケートに対して、「コロナで休校になった場合や不登校生徒への対応で利用できる。」「総合的な学習の時間の取材に使える。」などのオンラインの可能性を見出した意見があった。

新規採用養護教諭研修講座

＜アンケート調査の回答より＞ □成果 ■課題

- | |
|---|
| <p><input type="checkbox"/>松永先生にご助言をいただき、とても勉強になった。集合研修の時よりも先生を近くに感じることができよかった。</p> <p><input type="checkbox"/>チャット機能をうまく使えたことで、いつも以上に質問や意見を伝えることができ、とてもよかった。</p> |
|---|

■Zoomだと難しいと思うが、雑談のようなことができる時間があると、情報交換したりみんなの様子が分かったりするのでもっとよかった。

今回実施したことで、受講者側の受講環境の未整備による課題が散見された。しかし、アンケートにも、「カメラやマイクが付属したPCが一人職には配当されていないので、まずは機器の整備が必要だと感じました。今回の養教の研修会がきっかけで教頭先生から教育委員会の方に一人職のPCの整備について要望を出していただきました。Zoomの接続の仕方は今回の研修を通して学べたので、よい機会になりました。」などとあり、このような実践を契機に環境整備が進んでいく様子が見られた。

また、「今回の研修は、あなたにとって教員としての資質・能力の向上に役立つものでしたか。」という質問への肯定的回答は100%であったことから、講師のブレイクアウトルームによる分散会での助言だけではなく、全体講評も頂いたことで受講者の満足度は高まったと思われる。

中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（小学校、理科）

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

- 講師の先生方が、それぞれの職場から参加することができるため、距離や移動時間の制限がなくなることで、これまで呼べなかったような方を招くことができる。
- 講師による個別指導の時間を確保することができた。
- データや資料の共有が簡単にできる。
- チャットを使った意見交換は、直接話すよりも自分の考えを伝えることができた。
- 来所研修に比べて、オンラインでの研修は双方向でのやり取りが難しく感じた。
- 研修を受ける環境が整っていない。（環境、時間の配慮）

研究協議の場面では、大学の先生にオンラインでご参加いただいたことで、「より専門的な視点から研究協議を行うことができた。」という意見が多く見られた。また、「来所研修と比較して、講師との対話が深まった。」という感想も見られた。オンライン研修においても、協議の場の設定を工夫し、画面やデータの共有、チャット機能を組み合わせることで、来所研修に近い研修効果があることが分かった。

一方で、研修を受ける場所やICT機器の整備等、環境面に課題があるとの意見が多く見られた。また、画面上では感じる事ができない、相手の表情や場の雰囲気を読み取りながら協議を行うことの大切さについても多くの意見が見られた。

中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校、数学）

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

- 専門的な話を聞くことができる。
- チャット機能が便利である。
- インターネット環境（回線）の整備が必要である。
- 騒音が入ってしまうなど、勤務校における静かな環境の整備が必要である。

事後に行ったアンケート調査では、「教員としての資質・能力の向上に役立つものであったか」という質問に対して83%がよくあてはまると回答している。「より専門的な話を聴くことができる。」と回答にあるように、来所を依頼することが難しい講師でもオンラインならば参加していただけることもあり、積極的に活用することで研修の質を上げることができると考える。勤務校等で1人1台PCを使用する環境での実施であったため、講義途中でもチャットで質問を入れてもよいことを伝えたとこ積極的にチャットを活用する受講者が多く、オンライン協議の活性化に有効であった。勤務校でのオンライン研修は、「回線の問題」や「騒音の問題」など環境面での課題を挙げる回答も多かった。

中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校、数学）

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

□専門的な話を聞くことができる。

□チャット機能が便利である。

■インターネット環境（回線）の整備が必要である。

■騒音が入ってしまうなど、勤務校における静かな環境の整備が必要である。

事後に行ったアンケート調査では、「教員としての資質・能力の向上に役立つものであったか」という質問に対して、よくあてはまると回答している受講者は50%程度であった。3分散会に分かれての実施であったが、チャットの積極的な活用を呼びかけた分散会と、チャットを使用しなかった分散会では、アンケートの満足度に差が見られた。講座担当者がオンライン研修に習熟し、そのメリットを積極的に受講者に伝えていく必要がある。また、「オンラインで1日の研修は長い」、「同じ姿勢でずっとPCに向き合うため、体力的に厳しい」といった声も聞かれた。時間の短縮や休憩時間の確保も課題である。

○研修実施上の課題

オンライン研修の受講者を対象としたアンケートから、カメラ付きの端末やヘッドセット、マイク等、オンライン研修を受講するために必要となる機器の整備が十分でないことが分かった。また、ネットワーク環境についても、各学校における状況の差が大きいことが分かった。オンライン研修を継続する上で、環境整備が大きな課題である。

また、所属校からオンライン研修に参加する際には、会場までの移動時間が大幅に短縮されるという利点がある反面、研修時間の設定によっては、朝や帰りの学級活動や給食指導等に取り組む必要性があり、オンライン研修に専念できないことも考えられる。また、填補を依頼した上で、オンライン研修に参加することに抵抗感を感じる受講者も見られた。自宅からのオンライン研修の受講を促進することも含め、オンライン研修に対する意識を改革する必要がある。

③ 外部講師と連携したオンライン研修（Online EdCafé）

○研修の背景やねらい

令和2年度は、コロナの影響ですべての学校が休校からのスタートとなった。いつ学校が再開されるのか、子どもたちの学びをどうするか、再開後の感染症対策をどのするのかなど、先の見えない不安や閉塞感が漂う中、①先生方に元気を届けたい、②対話の力を感じてもらいたい、③教育に関するテーマから学んでもらいたいという三つの目標を掲げ、Online EdCaféが始まった。

オンライン会議システム（Zoom）を使って、マスターから提示される教育に関するテーマについて講師と参加者との対話を収録し、動画を配信した。講師は大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子先生、対話のメンバーは茨城県教育研修センターから4名（途中から5名）、小学校教諭1名、高等学校教諭1名で行った。第8、10、12回は特別ゲストに苦野 一徳先生を招いて対談したり、第9回は公開録画とし、視聴者からの質問や感想を直接木村先生に伝えて頂いたりなど、幅広くテーマを取り上げ、全12回の配信を行った。

○期間、対話内容

回	収録日	テーマ	メンバー	再生数
第1回	5月26日	みんなの学校	木村、櫻井、坂本、西條、眞崎、金子、長峯寺	5278回
第2回	6月3日	つなぐ・つながる	木村、櫻井、坂本、西條、眞崎、金子、	2606回

			長峯寺	
第3回	6月18日	学年をこえた子どもたちをつなぐ	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	1682回
番外編①	6月18日	いま、木村泰子先生が校長先生だったら	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、金子、 長峯寺	852回
番外編②	6月18日	大空小学校 「全校道徳」が生まれるまで	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	962回
第4回	7月13日	学校で対話はなぜ必要？	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	1537回
第5回	7月21日	対話を生み出すには？	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	1206回
第6回	8月7日	クラスの中の多様な子どもたち	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	1429回
第7回	8月31日	学校の役割を問い直そう	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	1247回
質疑応答	8月31日	必見！すべての子どもは地域の宝	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	354回
振り返り	8月31日	これまで(第1～7回 参加者の振り返り)	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	335回
第8回	9月10日	学校の本質は何かを考える 特別ゲスト：苫野一徳先生	木村、苫野、櫻井、 坂本、西條、眞崎、 石津、金子、長峯寺	3663回
第9回 【公開】	11月5日	全ての子どもたちの学習権を保障する学校	木村、櫻井、西條、 眞崎、石津、金子、 長峯寺	877回
質疑応答	11月5日	第9回の視聴者からの質疑	木村、櫻井、西條、 眞崎、石津、金子、 長峯寺	614回
第10回 【公開】	12月17日	学びの本質 特別ゲスト：苫野一徳先生	木村、苫野、櫻井、 坂本、西條、眞崎、 石津、金子、長峯寺	3127回
第11回	1月28日	手を伸ばそう！今日の延長上にある未来の 学校へ	木村、櫻井、坂本、 西條、眞崎、石津、 金子、長峯寺	786回
第12回	2月17日	雑談しよう！未来の学校の本質は？	木村、苫野、櫻井、	927回

		特別ゲスト：苫野一徳先生	坂本、西條、石津、金子
--	--	--------------	-------------

2021年3月1日現在

○研修の評価方法、評価結果

対話メンバーのエドカフェを終えての感想

<茨城県立小瀬高等学校 教諭 金子 容子>

「木村先生を囲んでオンラインでの対話の場をつくる」というお話を最初に伺った時、新しい試みにとてもワクワクした自分を覚えています。焦りや不安、閉塞感ばかりが語られがちな状況の中、新たな発想で非常に前向きな企画を、スピード感をもって準備して下さった教育研修センターの皆様には、今振り返っても感動しかありません。どんな状況にあっても学び続け希望に向かう姿勢、対話し分かち合いながら何かを形にしようという気概、そして、新しい可能性はそういう日々の真摯な営みから生まれ育って行くのだということ、今回の企画を通じて肌で感じ学ばせていただきました。対話の仲間に加えていただいたことに改めて感謝しつつ、エドカフェでの学びを振り返りたいと思います。

私にとってエドカフェの魅力は、木村先生や苫野先生という存在はもちろんのこと、なんと言っても、ここが「継続的な対話の場」であったということです。本で読み自分の中だけで温めていた言葉が、対話の中でより現実味を帯びてくるのを感じました。繰り返し問いかげられることで、学校教育を担っている当事者としての意識もより明確になったと思います。技術や方法を一方的に教えてもらう学びではなく、教育の本質的なことについて問いかけ語り合って新しい自分を見いだしていくような、そんな場でした。振り返れば今までの私も、無意識のうちに「教員」である自分を主語にして、だいたひ独りよがりな試行錯誤をしていたような気がします。主語を「子ども」に変えた時、それだけで景色が変わり自ずと自分の役割も違って見えてきました。対話の中で揺さぶられ、異なる視点を提示され、時に意識がひっくり返されて、そんな中で自分に生まれた変化は、みなさんと繰り返してきた対話の恵みです。教育への危機感や自分自身の至らなさに向き合うと同時に、どんな社会でありたいか、どんな風に生きる人間であってほしいかを考える未来に向けたエネルギーは、今やるべきことを教えてくれました。今こそやらなければならないと気持ちを奮い立たせてくれました。

エドカフェを通して感じた対話の力や喜びは、今日教育のどの現場でも必要とされているところではないでしょうか。私たち教員が、日々の迷いや自分の目で見た子どもの事実を雑談から始めて職場の仲間と共有し、確かめ合い、挑戦とやり直しを繰り返しながらありたい姿に近づいていく。私たちそれぞれが自分の身近なところから対話をスタートさせることが、いつか大きな変化につながるように思いますし、私自身も自分がいる場所でそんな営みを心がけていきたいと思っています。日常の忙しさや「例年通り」という身勝手な安定感に錯覚を起こすことがあるかも知れませんが、気がつく度に潔くやり直しをし、目の前の子どもの事実をつぶさに見て寄り添えるようにあろうと、今覚悟を新たにしているところです。

素晴らしい機会を本当にありがとうございました。自分自身の更なる学びと変化をもって感謝とお礼にかえられるよう、希望を持って教育の仕事に挑んでいきたいと思ひます。

<結城市立城南小学校 教諭 長峯寺 由香里>

学校の児童用机一つ一つに装着できる飛沫シールドが配付され、教師は「机が狭くなり学習の邪魔になるのではないか」「取扱いが大変」と、使う前から批判めいた声を出し始める。一方、それが子供たちの手に渡ると、「早く使いたい」「給食時に使うとさらによい」「これがあれば話し合いができる」と賞賛の声が飛び交う。この子供たちの適応力と柔軟性に私はいつも頭が下がると同時に、子供たちから物事を楽しく、前向きに捉えることを学びます。子供って大人の想像以上のことをしたり、世の中のルールや規範を軽々と乗り越えた考え方をしたりします。

だからこそ、優れた適応力と柔軟性をもつ子供たちが生きる社会、子供たちをとりまく環境や教育、大人たちってものすごく大きな影響力があると考えます。静かに先生の話聞く、先生の言うことに従う、授業中は自分の席から立ち歩かない、テストの点数で出来不出来が区別される雰囲気…自分の子供時代の学校を振り返るとこんな思い出が蘇ります。

しかし、約30年後自分が教師となり働く現場では…これだけ社会は変化しているのに学校はあまり変化がないように感じます。私の姿を子供たちが見ると子供たちの姿勢がよくなるような、そんな虚勢のような力もない私は現場でもがいていました。もがく中で、茨城県教育研修センターで研修の機会をいただき、櫻井良種 master の講座で木村泰子先生を知りました。大阪市立大空小学校「みんなの学校」を知り、今まで言葉にはできなかった教育の原点を明確に突きつけられたような感覚でした。教育や学校を問い直し、行動する先生がいることに感動を覚えるのと同時に勇気を与えていただきました。

個人的な事情もあり、教育、学校、社会について考えるようになりました。障害があると何が問題なのか、障害とってしまう自分は何者なのか…悶々と考える中でた答えは「子供の力を信じる」です。子育てをしていく中では、「ふつう」「平均」と言う言葉に何度も苦しい思いをしました。「自立」が大きな目標として掲げられ、将来のことや自分がいなくなったらこの子の人生はどうなるか。障害をもつと言われる子をもつ親の多くは、この不安を抱えているのではないのでしょうか。また、できるだけ「ふつう」に近づくための努力を強いられているように感じることはないのでしょうか。

私は、木村先生に出会って考え方が広がりました。一人で生きていくことが難しいなら、誰かの力を借りて胸をはって生きていってほしい。あなたという人を理解してもらって、あなたの良さをわかってもらおう力を身につけてほしい、と今は我が子に対して思っています。

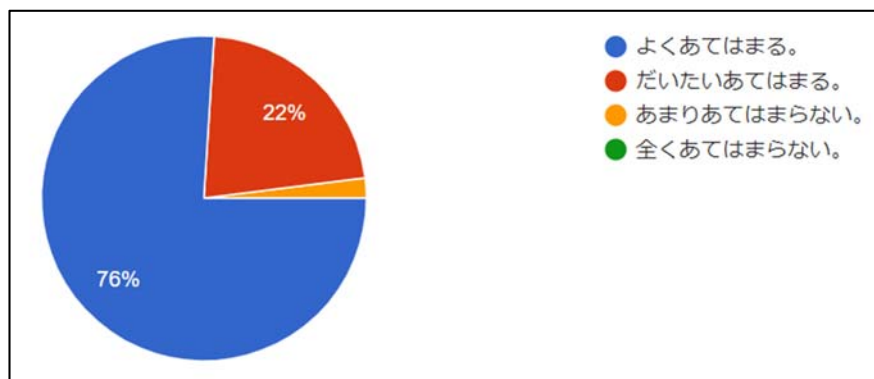
木村泰子先生にはぶれない軸があります。その軸はいつも「子供」が主語となる考え方で、しかもしなやかで、明るい。だからこそ、多様な子供や大人たちとも対等に対話ができるのだと感じています。木村先生と対話を重ねていると、いかに自分が教師（大人）の主語となる考え方をされていて、目的と手段をはき違えているか気付かされます。木村先生は10年先の未来を生きる子供たちの社会を見据えて学校の在り方を問い直しています。子供は地域の宝であり、その宝の子供たちが過ごす地域の学校の役割を、一人一人の学校に関わる大人が日々問い直すことで、子供も学校もさらに生き生きと輝くものになるはずで。

この EdCafé が多くの先生方が研修する茨城県教育研修センターから発信していることの意義やその価値の大きさは計り知れないものがあると思います。櫻井 master の熱い思いからスタートした EdCafé。EdCafé をきっかけに多くの先生方が教育の本質を見つめ直し、子供のための学校につくり直していくことを切に願います。

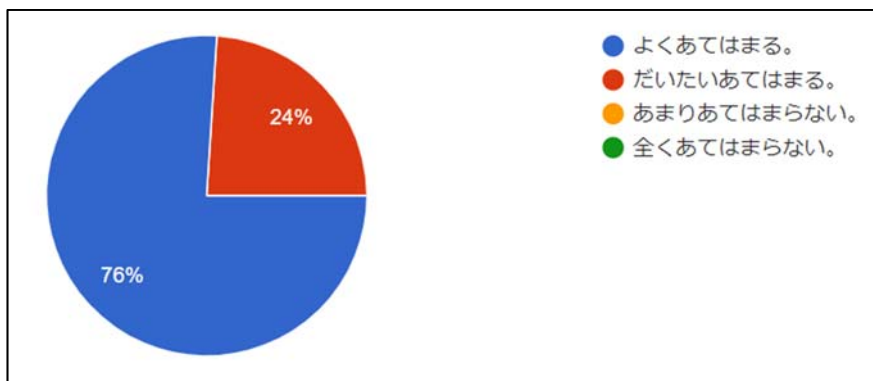
EdCafé 聴講者の感想

<アンケート調査の回答（第10回）より（令和2年12月17日実施 聴講者50人）>

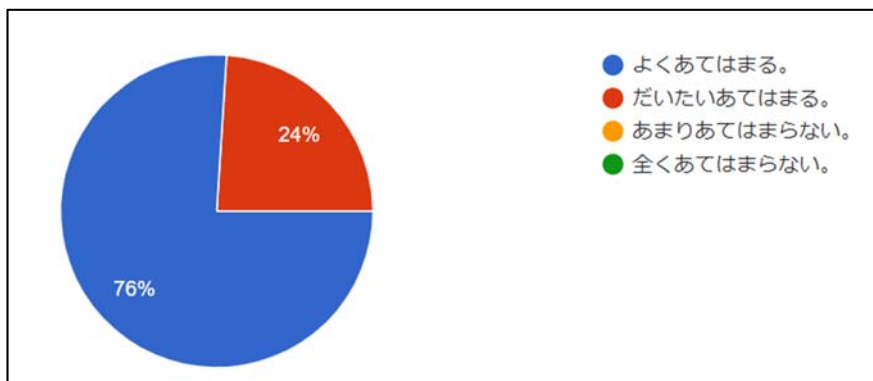
①今回の公開講義は、今後の教育活動に生かすことができる内容でしたか。



②今回の公開講義は、あなたにとって満足できる内容でしたか。



③今回の公開講義は、あなたにとって教員としての資質・能力の向上に役立つものでしたか。



④本日学んだことをどう生かしていきたいかを記述してください。

- ・教育は、自由に生きられる力、自由の相互承認の感度を高めるためにあるべきであると再認識した。「この行為は本当にこどものためになっているか」ということを念頭に置き、日頃の活動に生かしていきたい。
- ・我々教師は、いつも上から目線で指示して押さえ込んで、子供の意欲や能力をもぎとってしまっていたのだと改めて反省した。教師の意識を変えて子供の「探究する力」をつけるべく、教師同士が語り合い納得して方法を見だし、歩んでいきたい。
- ・「心が動いたら問いが立つ」という言葉にハッとした。授業において、児童の心を揺さぶり、自然と問いが生まれるように努力したいと感じた。
- ・「職員室が安全基地に」が印象に残った。生徒にとっても職員にとっても安全基地になるようにしていきたいと思った。

⑤本日の公開講義について、これからの研修に取り入れてほしい内容など、ご意見・ご要望があれば記述してください。

- ・テーマについての講演ではなく、議論をしていく中での発見、認識という形がとても勉強になった。こういった形の研修を継続して欲しい。
- ・オンライン研修は非常に有効だと感じる。対面で参加するときより、意見も言いやすく、初対面の人ともコミュニケーションがとりやすい。自分のパーソナルスペースから自分のペースで参加できるこのような形の研修をこれからも希望する。
- ・年齢や経験年数、教科の枠を超えて、EdCaféのように立場や経験年数の違う人が集い、自分の考えを自分の言葉で語りあえる場もあるとよいと思う。
- ・コロナ禍が、今回のような自由で双方向の研修を生んだ。今後コロナに慣れ、また旧来の上意下達型研修に戻ることを心配。
- ・グループトークの時間をあと5分程度でも追加されたら、先生方の解釈を聞いたり、講義の内容を整理したりできて、より学びが深まったのではないかと思った。

研修センターHP内のEdCafé意見フォームより（令和2年7月～ 10件より抜粋）

- ・先生方の思いや考えを知ることができて、表向きとは違った一面も知ることができて、とても新鮮です。（中略）回を重ねるごとに毎回パワーアップしていて、このように継続して木村先生とお話しできるなんて貴重な機会うらやましいです。参加できなくても配信してもらえて、うれしく思います。
- ・偶然、見つけて見始めたら、とても素晴らしい内容でした。参加されているみなさんの変容もわかり、自分もとても考えさせられます。これは、全国の教職員のみなさんに見ていただきたいです！ありがとうございました！
- ・木村泰子先生や苫野一徳先生のご著書から、自分の実践をやり直してみても、こちらの意識の変化で明らかに子どもたちの反応が変わることを実感しました。つい先日EdCaféのことを知り、もう夢中で全12回観せていただき、また更に、毎回毎回自分の思い込みが覆される快感に、ワクワクが止まりませんでした。今現場で行き詰まって苦しんでいる多くの先生方に観ていただけたら、きっと新しい希望の光が見えてくるのではないのでしょうか。

○研修実施上の課題

コロナ禍の現状で、「ピンチをチャンスに変える」ために何ができるかを考えることからEdCaféはスタートした。次年度以降も、「意識や行動の変容」に繋がる取組を目指し、研修の構築を心がけたい。

④ オンラインでの公開研修講座（Online Learning）

○研修の背景やねらい

オンラインでの公開研修講座（Online Learning）は、コロナ禍において、教職員の学びを支援するために教育研修センターの公開講義として県内の教職員を中心に募集し、実施した。

これまでは講師がセンターへ来所しての講義等であったが、オンラインの特性を生かした双方向型の研修により同様の内容が可能となる。また、講師が来所する際の負担軽減や旅費の削減にもつながり、研修のねらいに合わせて依頼できる講師が多様となる。オンラインを活用することで、多様な講師の講義等を通して、教員としての資質・能力の向上にも役立つものである。

○対象、人数、期間、会場、日程、講師

期日	テーマ名	講師名	所属等	受講数
令和2年10月19日(月)	With コロナの先に見える新たな学びの世界を求めて	平井 聡一郎	株式会社情報通信総合研究所 ICT リサーチ・コンサルティング部	78名
令和2年10月27日(火)	「特別の教科 道徳」の指導	浅見 哲也	文部科学省	85名
令和2年11月5日(木)	すべての子供の学習権を保障する学校	木村 泰子	大阪市立大空小学校初代校長	42名
令和2年11月6日(金)	学校改革・学校組織の在り方	工藤 勇一	横浜創英中学・高等学校	119名
		坂本 建一郎	時事通信社出版局	
令和2年11月12日(木)	不登校児童生徒の理解と支援	藤崎 育子	開善塾教育相談研究所	73名
令和2年11月17日(火)	応用行動分析学とは～行動の機能の見方を学ぶ～	三田地 真実	星槎大学大学院	72名

令和2年11月20日(金)	「ポストコロナ時代における学びの保障」(授業改善、授業づくり、評価)	石井 英真	国立大学法人京都大学	59名
令和2年11月27日(金)	学習指導と評価ー主体的に学習に取り組む態度を考えるー	東良 雅人	文部科学省	146名
令和2年12月1日(火)	GIGAスクール時代におけるタブレット端末の活用	小林 祐紀	国立大学法人茨城大学	159名
令和2年12月11日(金)	心を育てるグループワーク	正保 春彦	国立大学法人茨城大学	81名
令和2年12月17日(木)	学びの本質を考える	苫野 一徳	国立大学法人熊本大学	96名
		木村 泰子	大阪市立大空小学校初代校長	
令和3年1月22日(金)	保護者とつながる教師のコミュニケーション術	小林 正幸	国立大学法人東京学芸大学	49名

※上記の内容は、NITS カフェとして実施した。

○各研修での配慮事項

- ・双方向型のオンラインの特性を活用するため、教育研修センターと講師をテレビ会議システム (Zoom) で接続する。

※講師は、所属先等から参加

※受講者は、所属校及び自宅から参加

○各研修の目的、実施形態、内容、進め方の留意事項等

テーマ名、期日、時間、人数、講師	目的、内容、形態、使用教材、進め方等
「学校改革・学校組織の在り方」 ・令和2年11月6日(金) ・13:30~15:30 ・119名 ・講師 横浜創英中学・高等学校 工藤 勇一 時事通信社出版局 坂本 建一郎	○目的 ・千代田区立麴町中学校前校長工藤勇一氏と時事通信社坂本建一郎氏のお二人による、学校の内外から見た麴町中学校での取り組みの対談を通して、学校改革・学校組織の在り方について学ぶ。 ○実施形態 教育研修センターと学校をテレビ会議システムで接続 (在宅勤務の教職員は自宅から) ○内容 ・工藤勇一氏による麴町中学校校長時の講義 ・工藤勇一氏と坂本建一郎氏の対談 ・受講者からの意見や質問に対する回答 ○進め方の留意事項 ・チャット機能を活用して、質問や意見などを入力し、双方向型の研修になるように配慮した。 ・進行補助役がチャットの内容を進行役へ伝え、受講者の質問に答えられるようにした。

	<p>○その他 約2時間の研修中、回線が途切れるトラブルもなく、予定通りに研修を行うことができた。</p>
<p>「ポストコロナ時代における学びの保障」（授業改善、授業づくり、評価）</p> <p>・令和2年11月20日(金) ・13:30～15:30 ・59名 ・講師 国立大学法人京都大学 石井 英真</p>	<p>○目的 ・ポストコロナ時代において、学びの保障の在り方について考えていく。また、新しい時代を見据えた、これからの授業の在り方について理論的・実践的側面から検討していく。</p> <p>○実施形態 教育研修センターと学校をテレビ会議システムで接続（在宅勤務の教職員は自宅から）</p> <p>○内容 ・学びの保障の在り方についての講義 ・新しい時代を見据えた、これからの授業の在り方についての講義 ・受講者からの意見や質問に対する回答</p> <p>○進め方の留意事項 ・チャット機能を活用して、質問や意見などを入力し、双方向型の研修になるように配慮した。 ・進行補助役がチャットの内容を進行役へ伝え、受講者の質問に答えられるようにした。</p> <p>○その他 約2時間の研修中、回線が途切れるトラブルもなく、予定通りに研修を行うことができた。</p>

○研修の評価方法、評価結果

「学校改革・学校組織の在り方」

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

- | |
|---|
| <p>□学校が一丸となって、最上位目標を設定できるかが重要だと感じました。</p> <p>□学校改革のポイントを自分なりに考え、改革はできなくても改善に取り組みたいと思う。</p> <p>□最上位目標に立ち返り、本当に必要なものを教職員と合意形成していくことが大切であるということが分かった。</p> <p>■工藤校長のお話をもっと聞きたかった。</p> <p>■授業が終わる時間辺りにオンライン研修にしていただけるとありがたい。</p> |
|---|

事後に行ったアンケート調査では、「今回の公開講義は、今後の教育活動に生かすことができる内容でしたか。」に対して94%の受講者が「よくあてはまる」と回答している。また、「今回の公開講義は、あなたにとって教員としての資質・能力の向上に役立つものでしたか。」に対して90%の受講者が「よくあてはまる」と回答している。

オンライン研修を通して、新たな課題が見つかり、教員としての新たな視点をもつきっかけにもなったことが考えられる。また、時事通信社坂本建一郎氏が進行役として、受講者の意見や質問を取り上げてくれたことにより、受講者との双方向型の研修になったことがアンケート調査において高い評価につながったことと考えられる。さらにテレビ会議システムの録画機能をもとに90分に編集し、本センターホームページから動画を視聴できるようにしたため、再度、研修の振り返りが可能であることや業務により研修を受講できなかった方も視聴できることで、県内の教職員の資質・能力の向上もつながると考えられる。

「ポストコロナ時代における学びの保障」（授業改善、授業づくり、評価）

<アンケート調査の回答より> □成果 ■課題

- 「考える力を育てるかどうか」ではなく「どのレベルの考える力を育てるのかを考えなければならない」ということを意識して授業づくりをしていきたいです。
- 「休校中だけの特別な環境」として、「以前の授業」に戻るのではなく、この経験をベースにした、より Authentic な学びの場を作っていこうと思います。
- このような時代だからこそ、学校や私たちの存在意義を考え直す機会だという話しに感銘を受けました。
- 受講者の方とブレイクアウトする時間があまりとれなかったので、今後は意見交流をしたい。
- レジュメの最後にある「教科における本物の学びのイメージ」について、聞きたかった。

事後に行ったアンケート調査では、「今回の公開講義は、今後の教育活動に生かすことができる内容でしたか。」に対して83%の受講者が「よくあてはまる」と回答している。また、「今回の公開講義は、あなたにとって教員としての資質・能力の向上に役立つものでしたか。」に対して78%の受講者が「よくあてはまる」と回答している。

オンライン研修を通して、新たな課題が見つかり、教員として次へ繋がる視点をもつきっかけになったことが考えられる。また、進行役の指導主事が、受講者の意見や質問を取り上げたことにより、受講者との双方向型の研修になったことがアンケート調査において高い評価につながったことと考えられる。さらに、テレビ会議システムの録画機能をもとに当日の様子を90分に編集し、当センターホームページから動画を視聴できるようにしたことにより、参加者が研修の振り返りに使ったり、業務により研修を受講できなかった方が視聴できるようになったり、広く県内の教職員の資質・能力の向上にもつながったと考えられる。

本センター外部評価委員会コメントでは、「のべ2万人近い視聴者を得たオンラインエドカフェや多様な専門家を講師にしたオンラインラーニングなど、オンラインの好企画を実現されたセンスと機動力に驚嘆します。」「新たに構築したオンラインエドカフェ、オンラインラーニングもよかったと思います。どちらにも参加させていただきましたが、ファシリテーター役の方がチャットをうまく使って、受講者の聞きたいことをうまく拾い上げていただきました。もちろんやってみて反省点もあると思いますが、ぜひ続けていただけたら嬉しいです。働き方改革の流れもあり、真に必要な研修を必要な場所で受けられるように、しっかり検証して、アフターコロナの研修の在り方について考えていただければと思います。」といった内容からもオンラインを使っての研修は、今後もニーズがあり、ICTの整備環境が整えば、さらに発展性があると考えられる。

以上のような、受講者からのアンケートや外部評価委員の評価コメントから、オンラインでの公開研修講座(Online Learning)は、県内教職員の資質・能力の向上に、大きく寄与することができたと考えられる。

○研修実施上の課題

オンライン研修の受講者からは、「対面での研修よりも、講師との距離感が近く感じた」という感想が多く見られた。一方で、研修講座の運営について何も工夫しなければ、画面をただ見ているだけの受け身の研修になってしまう危険性もある。受講者の行動変容を目指し、双方向性を意識した研修を構築するために、リアクションやチャット等の機能、画面やファイルの共有、Jamboard やスライドを使用したオンライン上での協議等、研修講座の目的に応じて、意見交換の様々な手法を取り入れていく必要がある。

3 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

○連携を推進・維持するための要点

連携を推進・維持するための要点は、日程の調整と予算の確保である。本事業は、テレビ会議システムを使用しているため、比較的容易に各種研修講座や打合せに参加することができた。しかし、教育研修センターや大学がそれぞれの計画で活動しているため、日程の調整で難しさを感じる場面もある。また、予算の確保では、本事業を活用することで、オンライン研修に必要な機器、旅費等の必要経費を確保できたため、円滑に連携事業を行うことができた。

○連携により得られる利点

連携により得られる利点については、教育研修センターと大学側それぞれに考えられる。教育研修センターにとっては、より専門的な知識をもった講師から指導・助言を得ることで、研修の質の向上が考えられる。また、大学にとっては、教育現場の実態を把握し、教員養成にフィードバックできることが考えられる。

○今後の課題等

今年度の連携は、限られた分野のみであった。今後に向けて、連携の幅を広げていく必要がある。教育研修センターと各大学の連携を推進し、養成と育成の一体化を図ることで、「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標（茨城県教育委員会）」や「教職員の資質・能力の向上を目指す研修体系（教育研修センター）」を基にした教員の資質・能力の育成に取り組む必要がある。

4 その他

【キーワード】

テレビ会議システム Zoom Meet 教員研修 オンライン研修 講師遠隔型
研修の双方向性 校内研修支援 大学との連携 働き方改革 「EdCafé」

【人数規模】

D. 51名以上

【研修日数（回数）】

D. 11日以上（11回以上）

【担当者連絡先】

●実施者

実施機関名	茨城県教育研修センター	
所在地	〒309-1722 茨城県笠間市平町 1410	
連絡担当者	所属・職名	教科教育課 指導主事
	氏名（ふりがな）	坂本 要 （さかもと かなめ）
	事務連絡等送付先	〒309-1722 茨城県笠間市平町 1410
	TEL/FAX	0296-78-3213 / 0296-78-2122
	E-mail	sakamoto.kaname@post.ibk.ed.jp

●連携機関

連携機関名	三大学教員養成連携協議会 (茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学)	
所在地	〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 (茨城大学)	
連絡担当者	所属・職名	茨城大学教育学部長
	氏名 (ふりがな)	荒川 智 (あらかわ さとし)